

相馬市でのWBCによる被ばく検診結果(5)

結果概要

平成27年8月12日

1. 検査時期：平成26年2月1日から平成27年4月25日まで
2. 受診者：相馬市民 6,266人（大人 3,747人、子供 2,519人）
3. 検査機器：キャンベラ社製ホールボディカウンター（相馬中央病院、公立相馬総合病院）を使用し、セシウム134および137に由来する放射線を測定しました。機器の測定検出限界は、約4Bq/kg（250Bq/body）です。

今回の結果は、相馬中央病院および公立相馬総合病院での測定結果をまとめて集計しています。

小児の集計には、2014年9月から12月に行われた学校検診での検査結果も含めています。

4. 検査結果の説明

①図1-1及び1-2：今回の測定で放射性セシウムが検出された方の割合は、成人および高校生で0.8%（平成25年4月1日～平成26年1月31日までの期間は1.5%）、20Bq/kg以上を検出した方は、1人でした。

一方、小児では、2,519名中1人で約6Bq/kgが観測されましたが、残りの方は、検出限界以下で20Bq/kg以上の方はいませんでした。

②図2：体内に放射性セシウムが観測される方の頻度は、大人および小児ともに事故後の時間か経つにつれて徐々に低下し、小児では2012年11月以降0.5%未満と極めて低い水準を保っています。

しかしながら、大人では2014年に一時的に検出率の増加を認めており、検査や啓発活動の継続が望まれます。

③図3-1及び3-2：年齢別では、高齢者ほど放射性セシウムの検出率が高くなります。食生活の違いおよび体内に取り込んだ放射性セシウムの排泄速度（生物学的半減期）の差などが影響していると考えられます。

⑤図4-1、4-2及び4-3：アンケートの結果、相馬市民の食材や環境を介した内部被ばく増加に関する不安は低下する傾向にあります。

⑥図5-1及び5-2：食材は、多くの方がスーパーなどで流通しているものや、地元産であっても検査を経たものを摂取されており、未検査の食品の摂取を続けている方は少ない状況です。

⑦図6-1及び6-2：ホールボディカウンター検診への受診率は、一時、低下傾向でしたが、学校検診導入後、特に小児の受診者数は再び増加しました。しかし、20代及び30代の方の受診率は低い状況が続いています。

⑧図7：多くの方が検査継続をご希望されていることが判りました。

相馬市では、市民の健康を守るために、今後もホールボディカウンターでの測定業務を続けていきますので、自分の健康を守るために積極的に受診するようにしてください。

【結果の総括】

2014年2月から2015年4月までの内部被ばく検査集計をご報告いたします。

検査月別のセシウム検出率は、大人は低下傾向、子供も非常に低い状況を維持しています。国の定める1mSv/年の被ばく量に比べ、2桁以上低い値を維持しており、今現在の相馬市での生活をする上での慢性的な内部被ばくが非常に低く抑えられていることを示しています。

産地を選ばずとも、流通している食品の汚染度が抑えられており、スーパーでの食品の購入、地元産の検査済みの食品・水道水について安全性が十分に高いことが内部被ばく検査からも裏付けられると考えられます。

内部被ばくの値、セシウムの検出率は低い状況を維持しておりますが、今後も継続的な検査や食品検査の徹底いたします。市では、各種放射線検査の拡充、食品検査結果の迅速な公表・注意喚起に努めるとともに、継続的な検査、健康フォローの強化を行っていきたいと考えております。

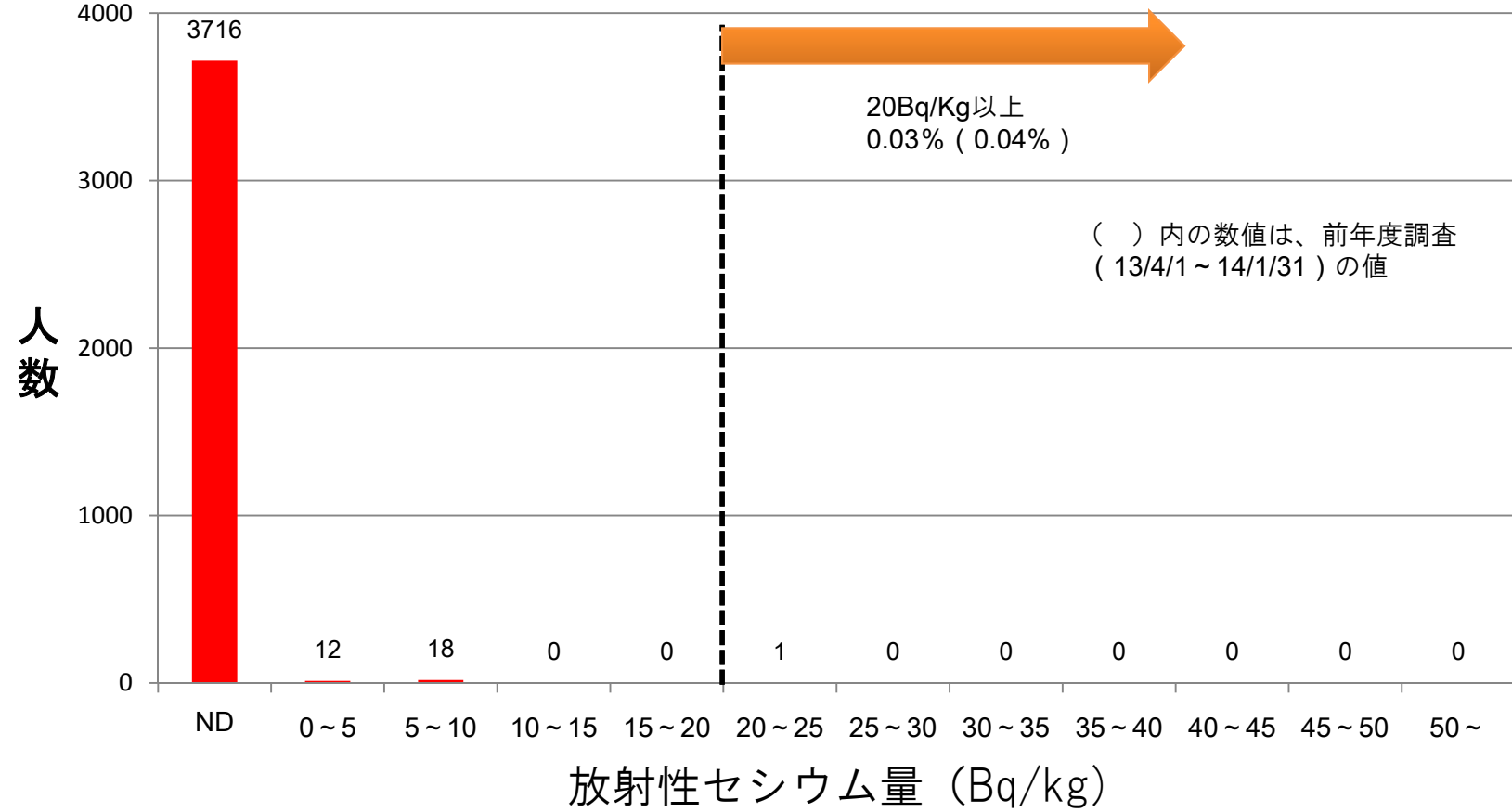
相馬市長 立谷 秀清

作成 相馬中央病院 坪倉正治 森田知宏

図1-1

セシウム137の体内放射能量別の被験者数
 通期14/2/1 ~ 15/4/25 (n=3,747人) **大人(高校生以上)**

・受診者人のうち未検出(ND)の方は、3716人(99.2%)で前年度の98.5%に比較して増加しました。
 ・20Bq/kg以上検出した大人は、1名、0.03%(前年度0.00%)でした



ND	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
3716	12	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0
99.2%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

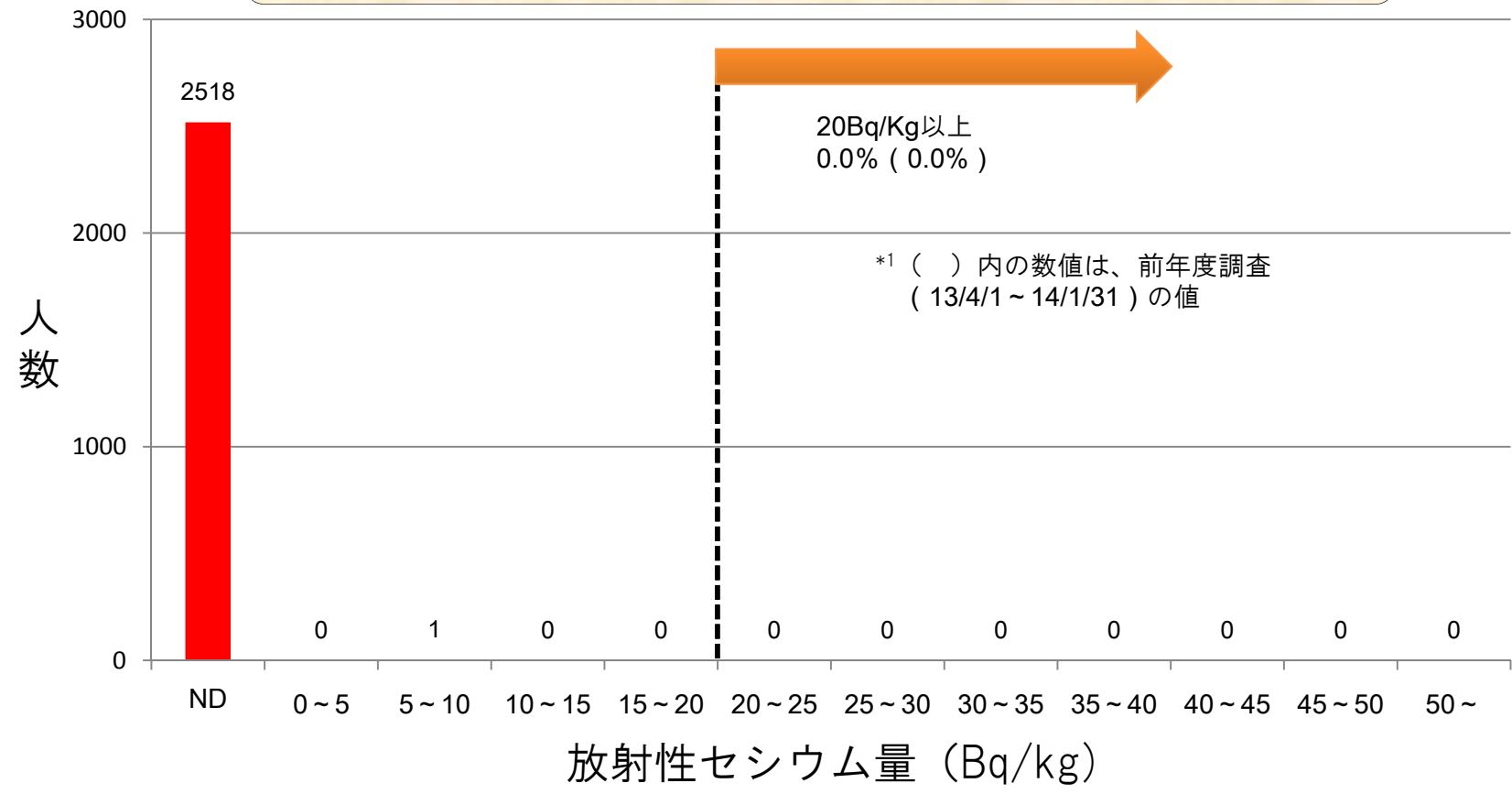
検出限界は250 Bq/body (体重60 Kgの方で4 Bq/Kg程度) です。

図1 - 2

セシウム137の体内放射能量別の被験者数

通期14/2/1 ~ 15/4/25 (n=2,519人) 子供 (中学生以下)

・ 受診者人のうち未検出(ND)の方は、2,518人 (100.0%) で20Bq/kg以上検出した子供は、0名でした。
 ・ 今回の結果には2014年9月から12月まで行われた学校検診も含まれています。



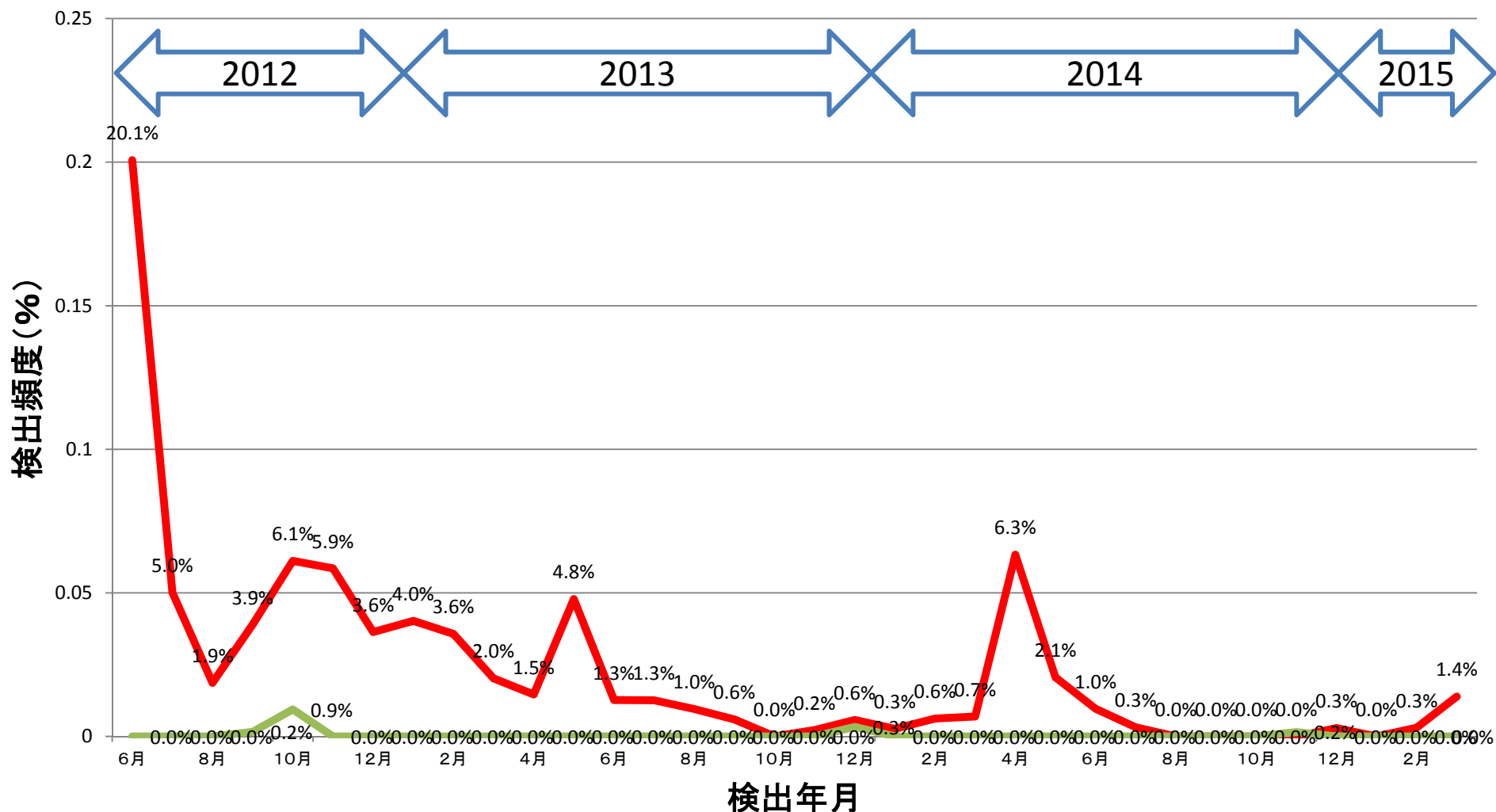
ND	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50~
2518	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

検出限界は250Bq/bodyです。体重60Kgの方で4Bq/Kg程度になります。

図 2

月別セシウムの検出率の推移

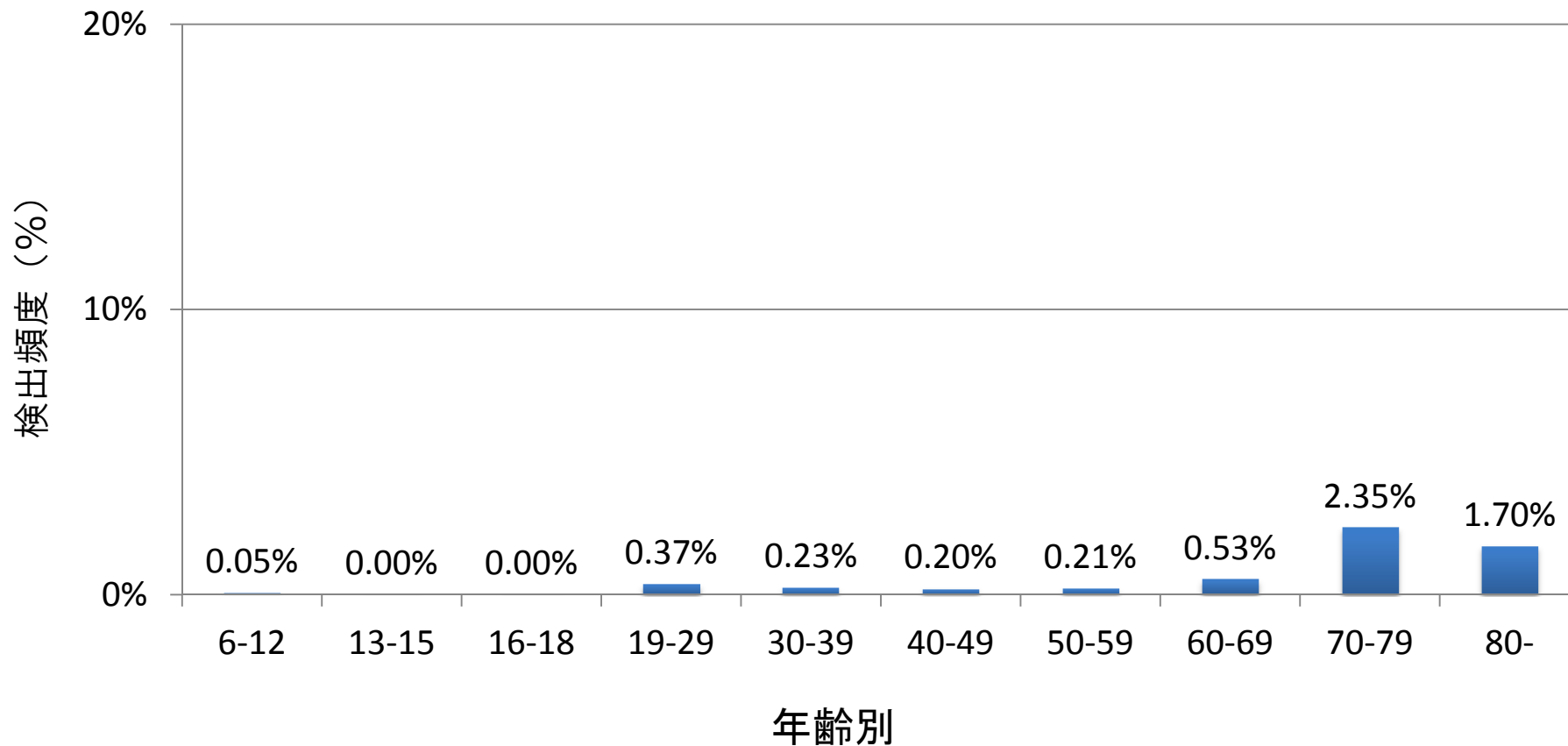
平成24年6月～平成27年4月



※検出率は、セシウム134またはセシウム137のいずれか、または両方が検出限界以上の場合を「検出」としています。
※大人は高校生以上、小児は中学生以下と定義しています。

図3 - 1

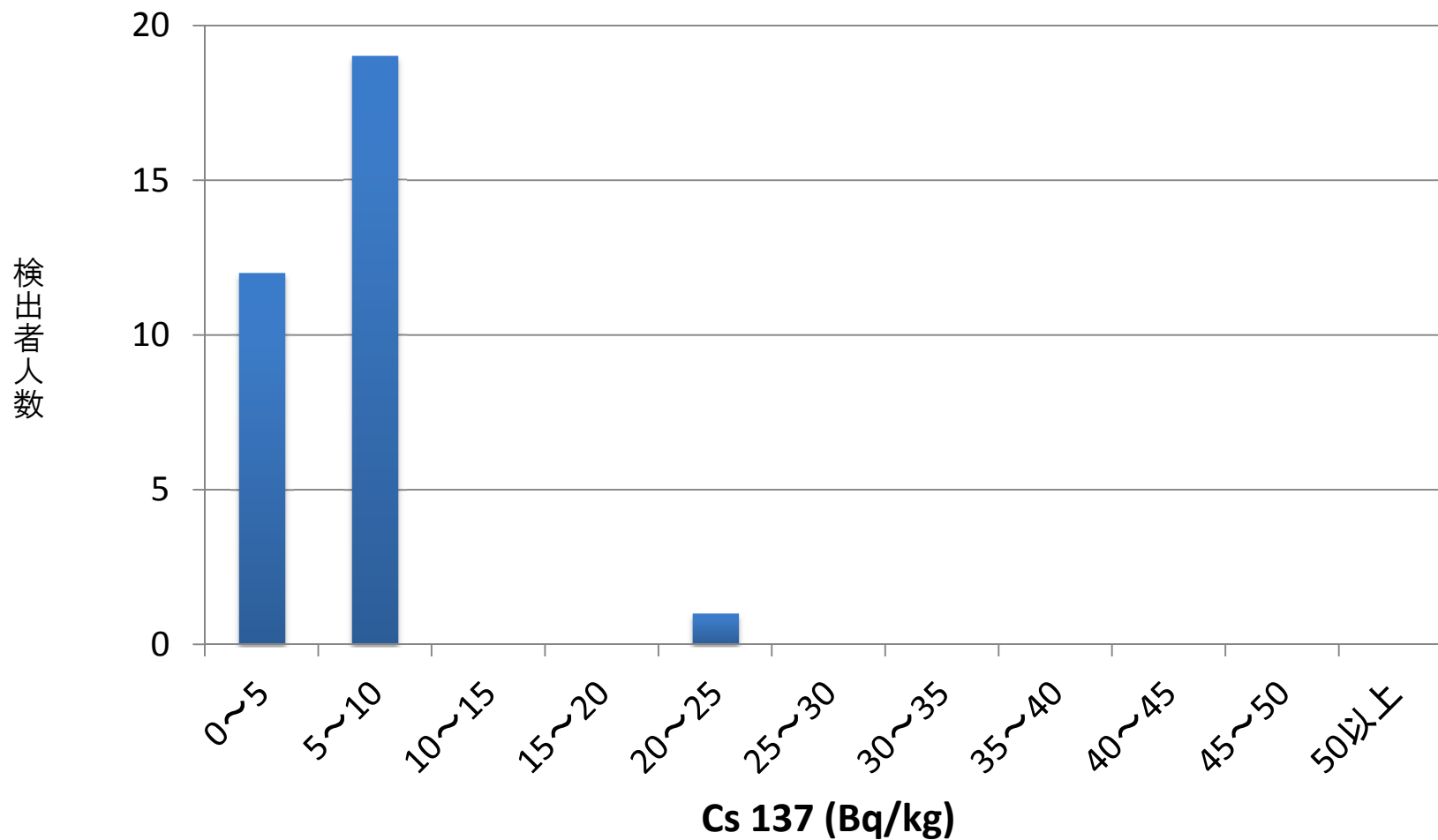
年齢別セシウム137検出割合 n=6,266人



年齢区分	6~12	13~15	16~18	19~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80以上
検出数	1	0	0	1	1	1	1	5	18	4

図3-2

セシウム137検出者詳細 n=6,266人

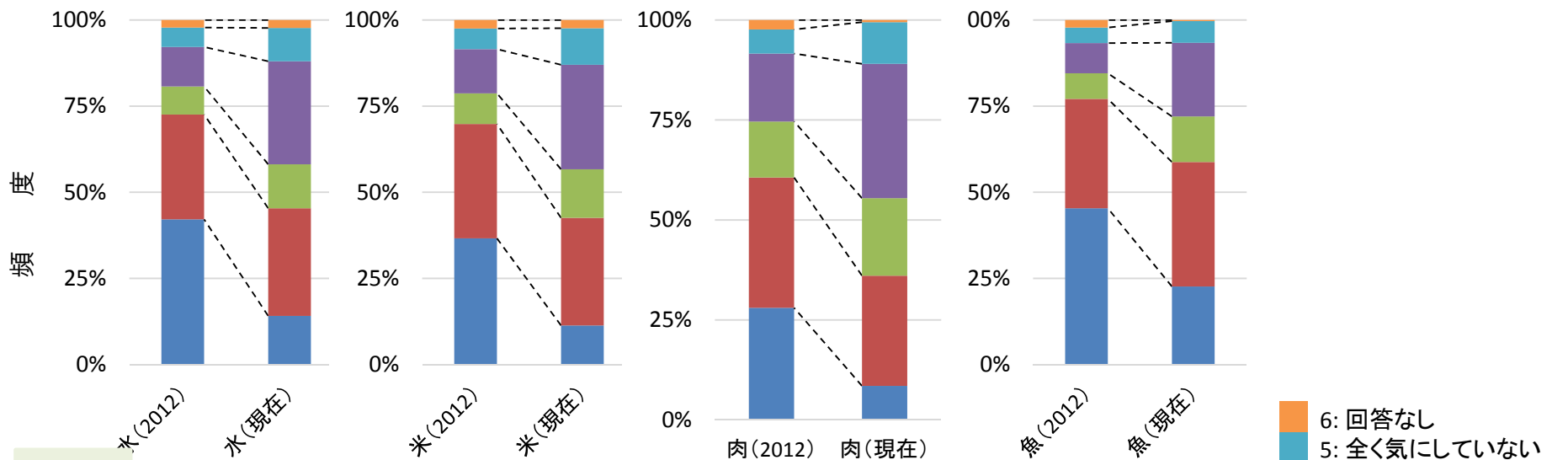


Cs137Bq/kg	0~5	5~10	10~15	15~20	20~25	25~30	30~35	35~40	40~45	45~50	50以上
検出人数(人)	12	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0

図4-1

内部被ばくの原因として気になる食材

大人



小児

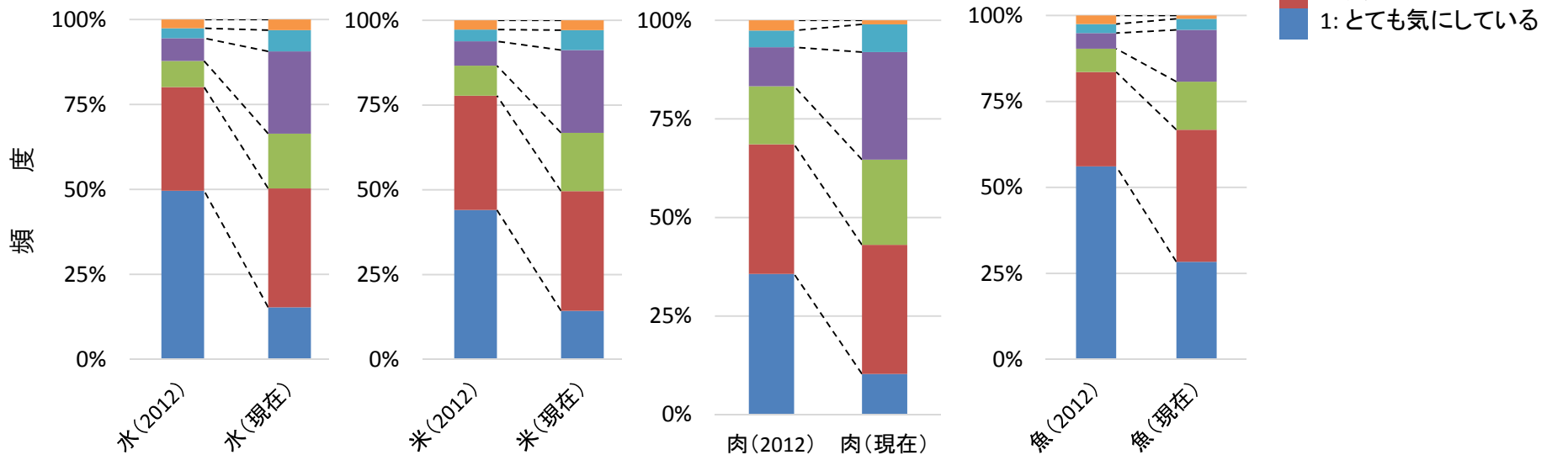
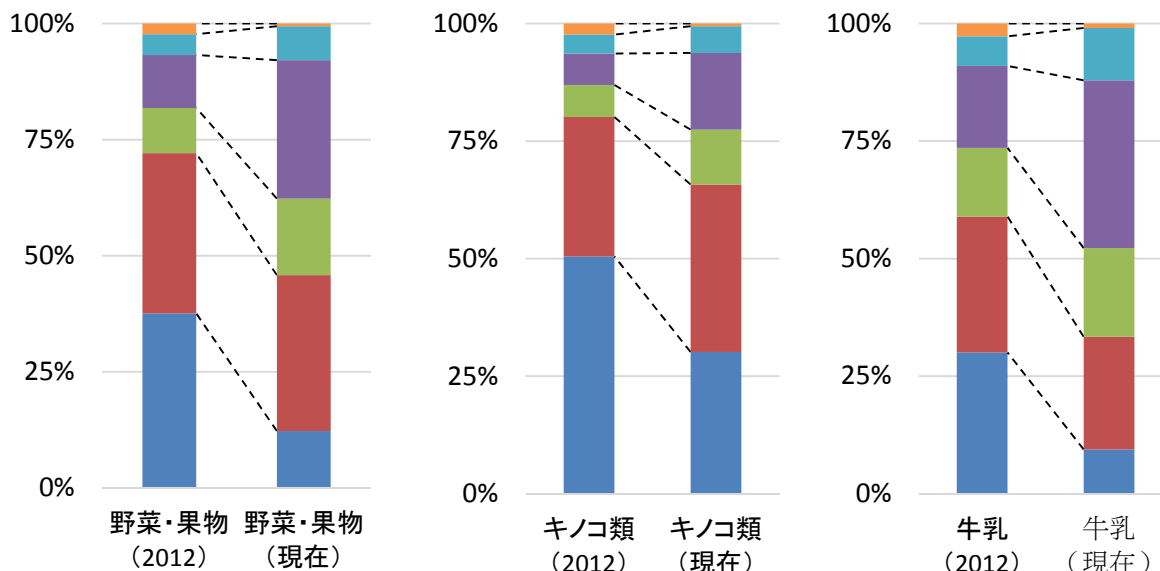


図4-2

内部被ばくの原因として気になる食材

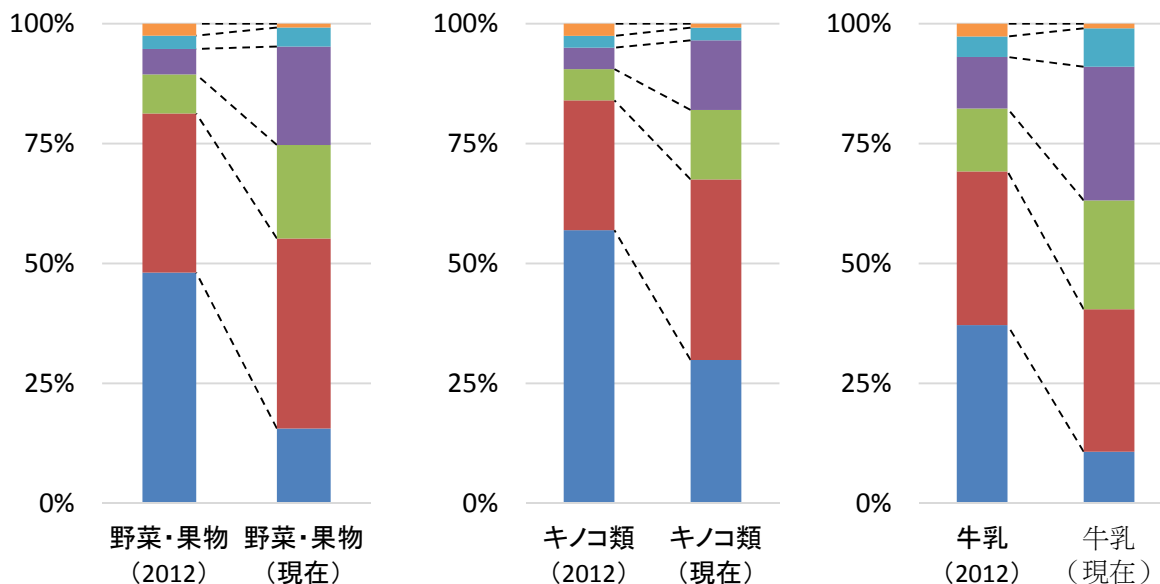
大人

度
頻



小児

度
頻



- 6: 回答なし
- 5: 全く気にしていない
- 4: あまり気にしていない
- 3: どちらともいえない
- 2: 気にしている
- 1: とても気になっている

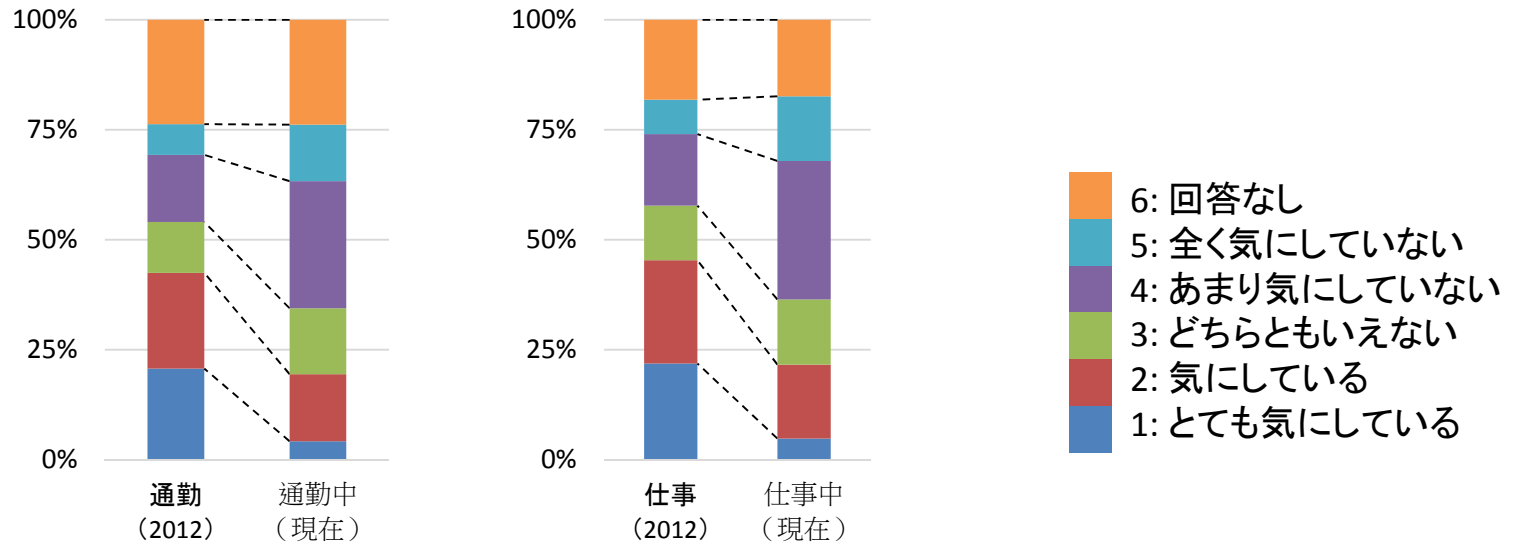
図4-3

塵やほこりの吸入について

大人

通勤をしている方のみ対象としています。

度
頻



小児

度
頻

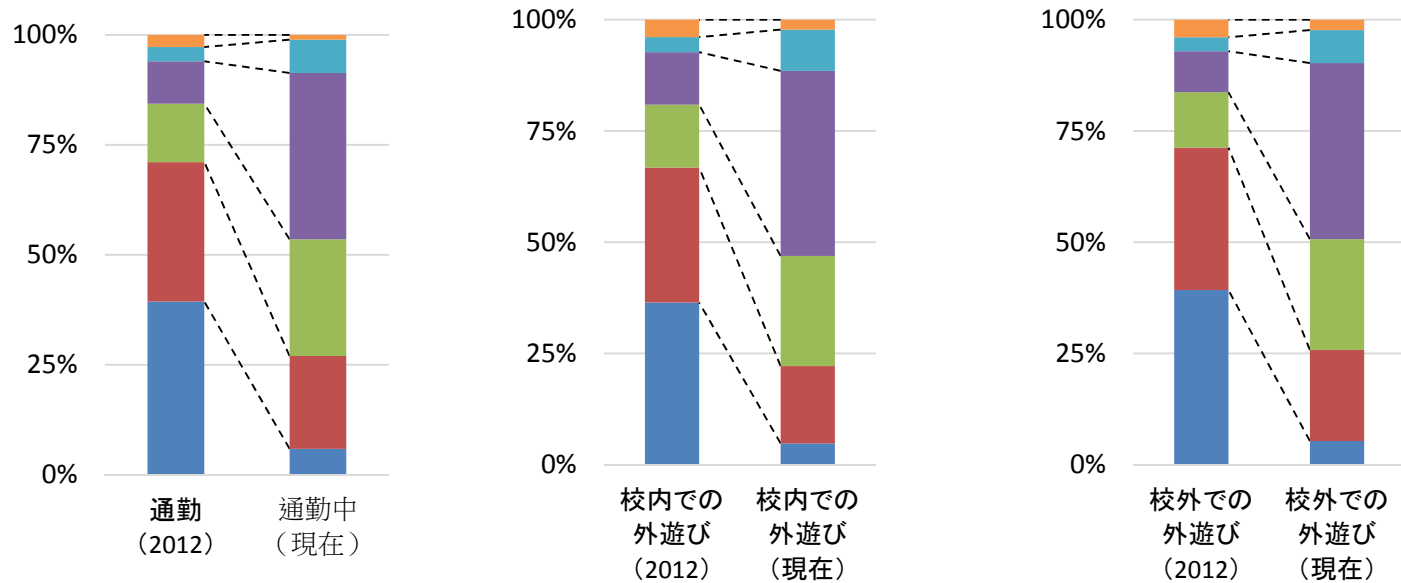


図5-1

食べ物の調達方法

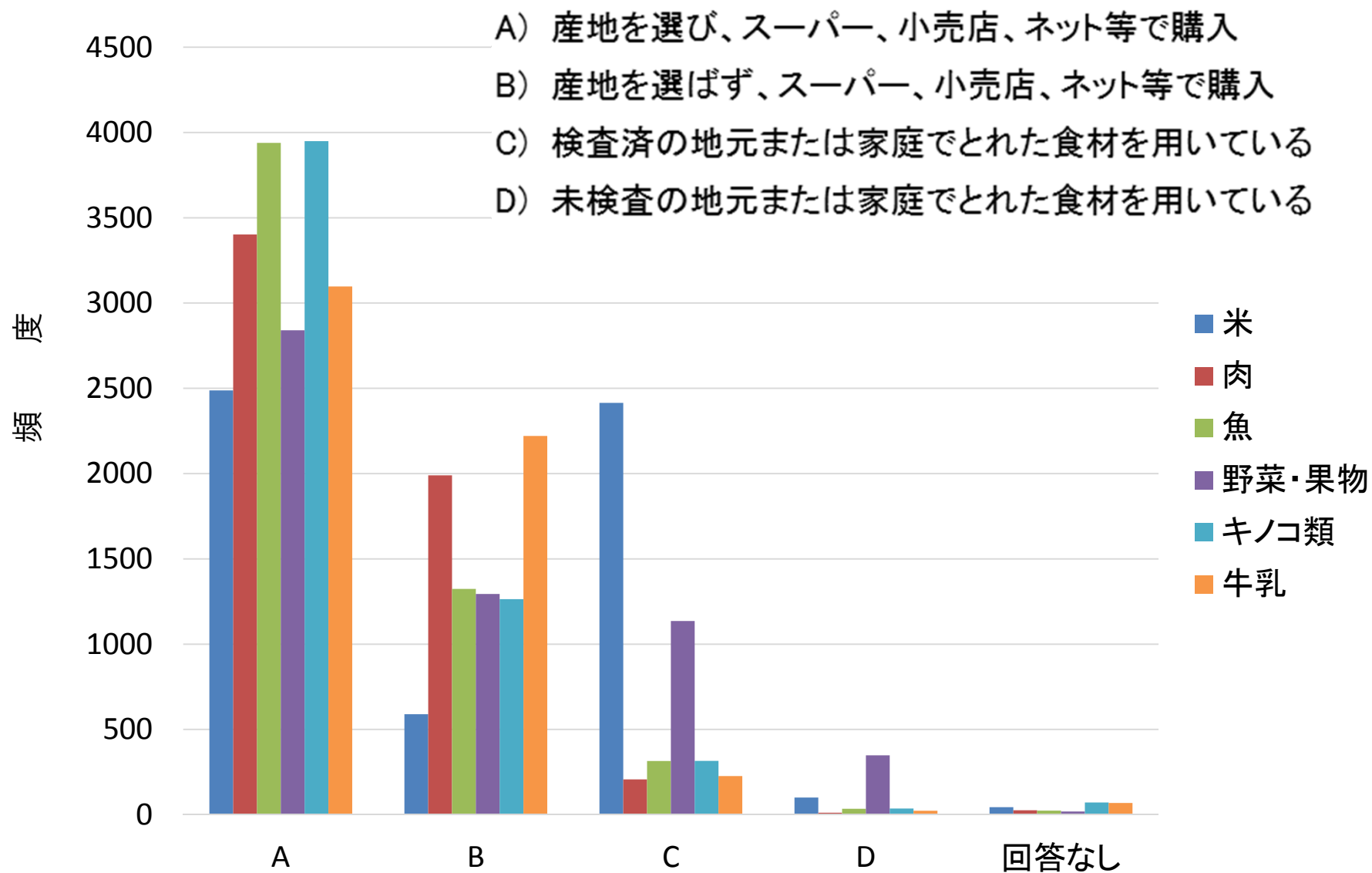


図5 - 2

自宅の飲料&調理水の種類

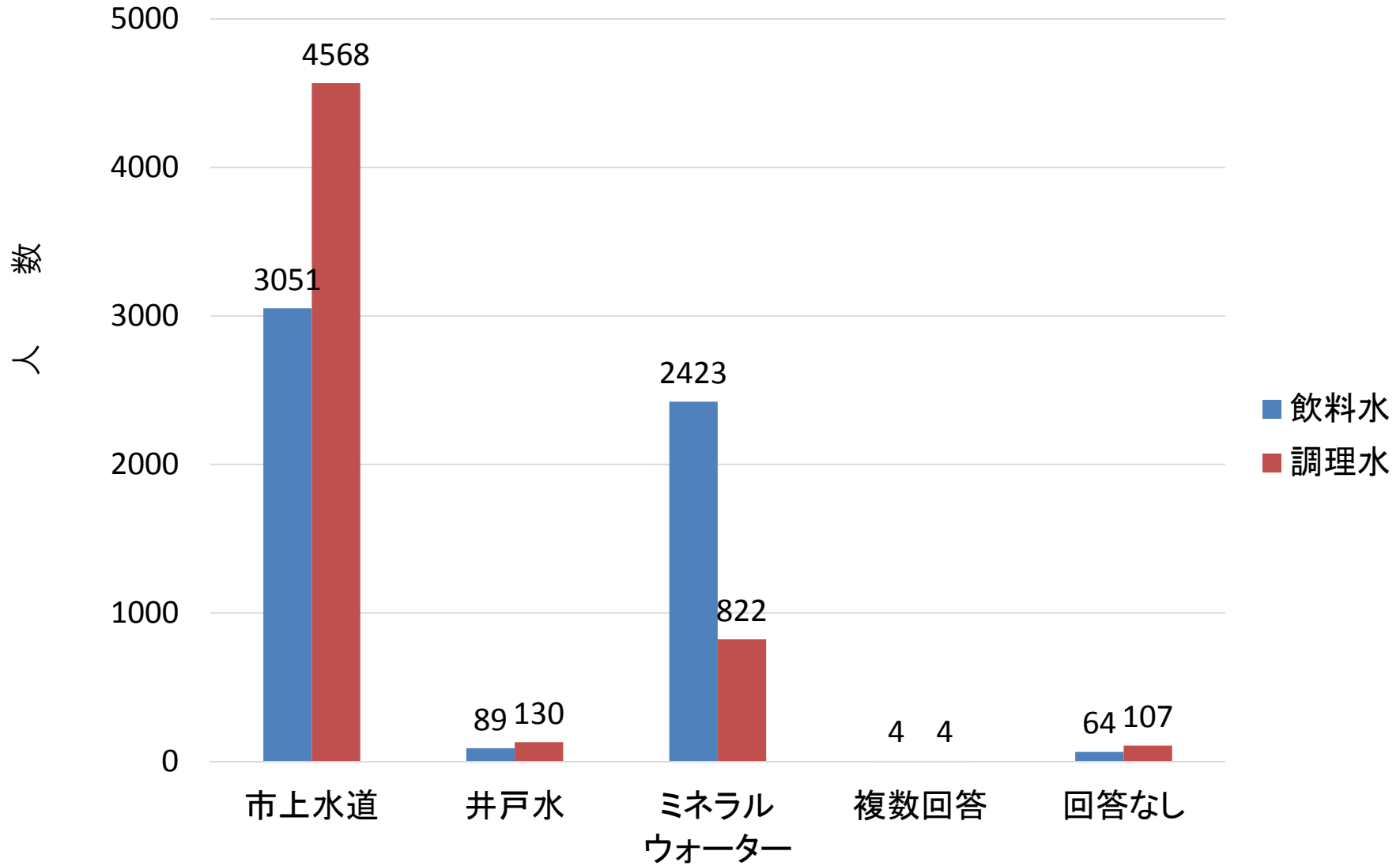


図6-1

月別受診者数の推移

平成24年6月～平成27年4月

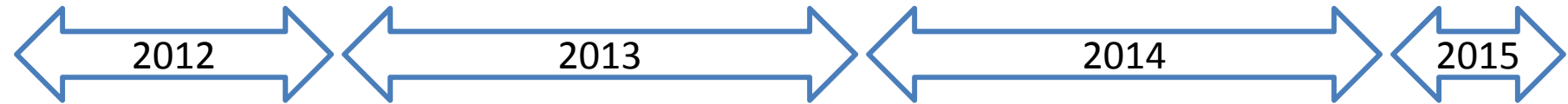
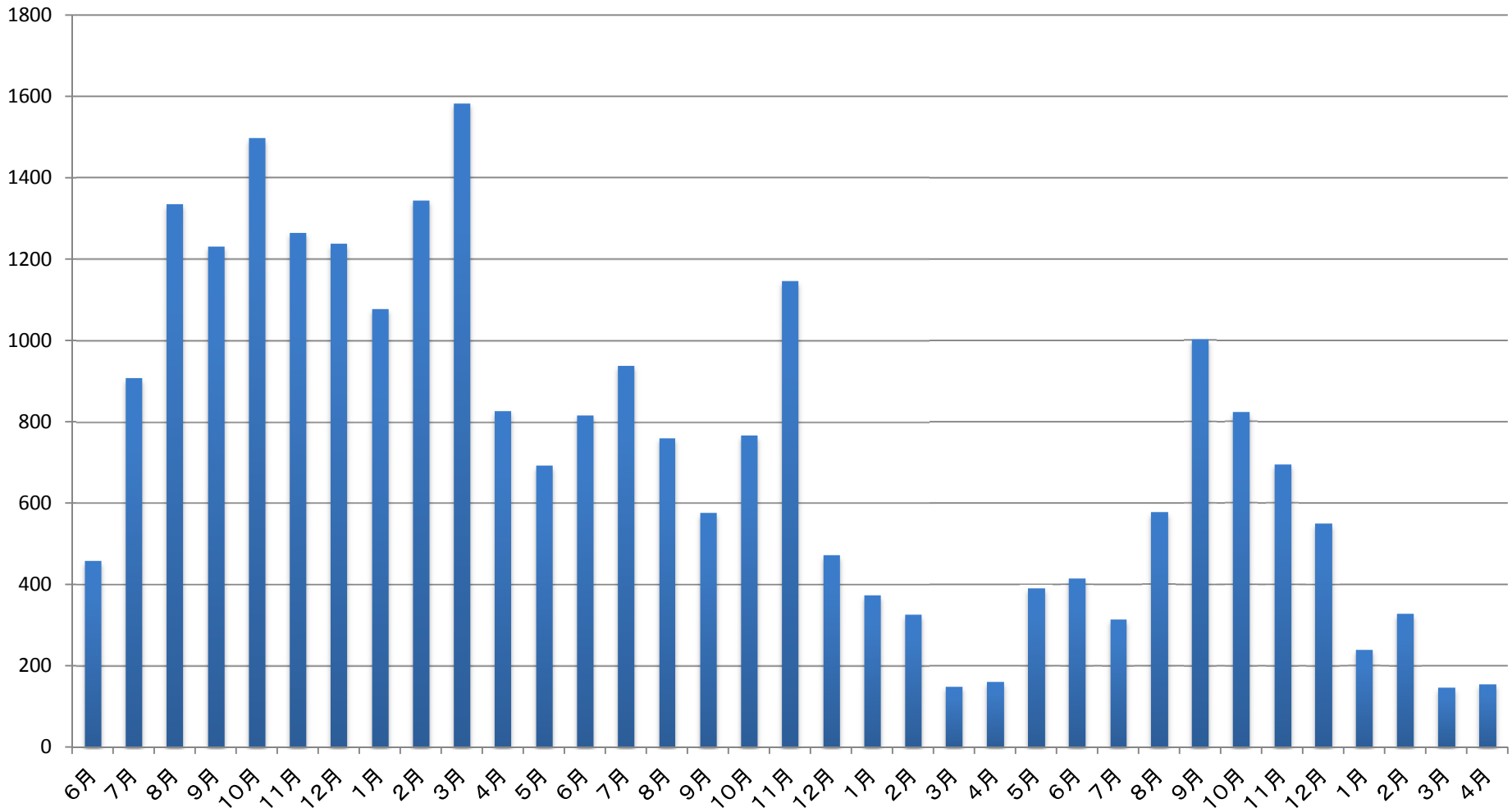
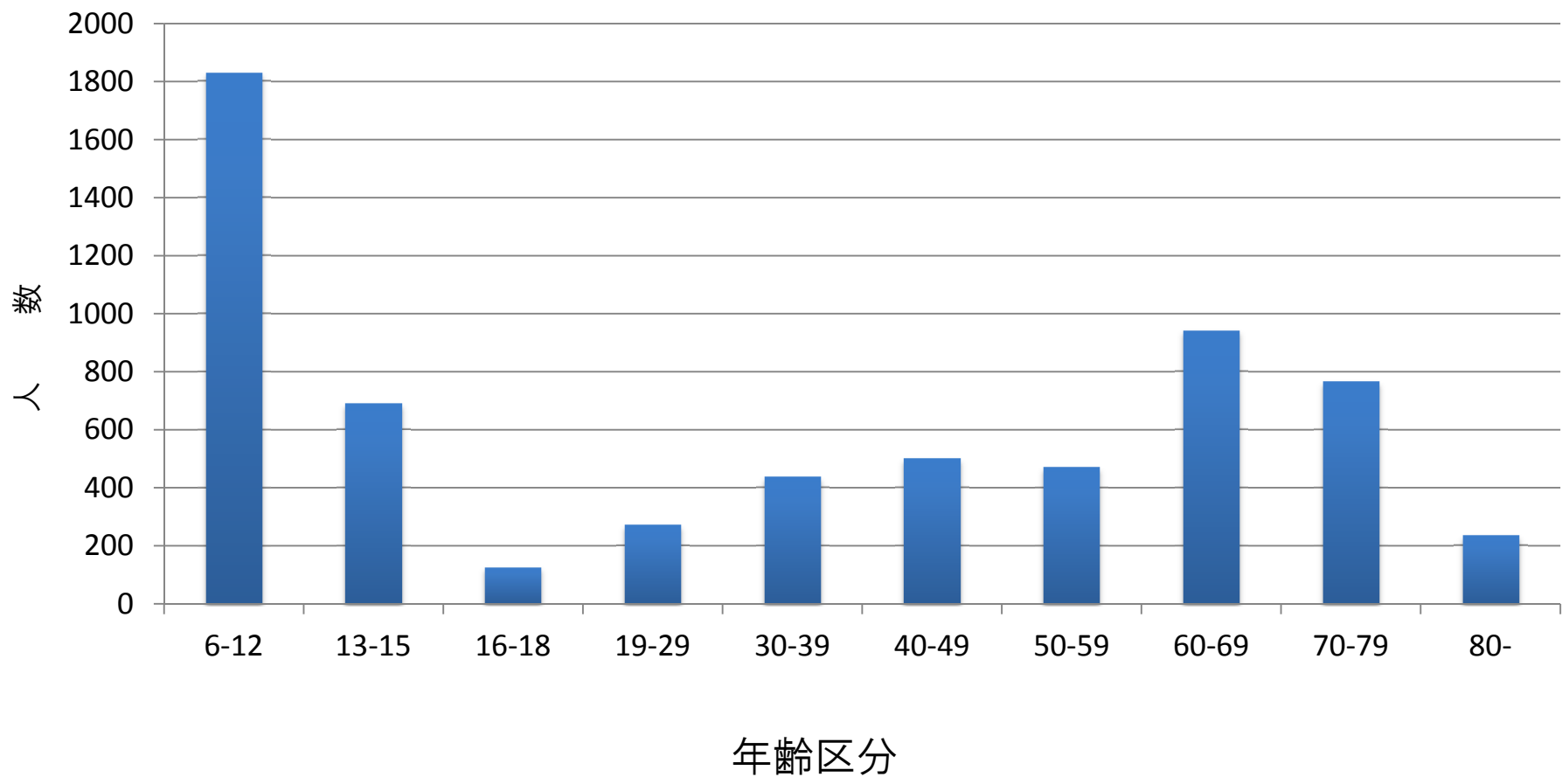


図6-2

年齢別受診者数の推移

平成26年2月～平成27年4月



年齢区分	6～12	13～15	16～18	19～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上
受診者数	1830	689	125	272	437	500	471	941	766	235

図 7

今後のWBC検診について

